

令和4年度

事業報告書
及び附属明細書

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

公益財団法人 八王子市学園都市文化ふれあい財団

I 令和4年度財団経営の総括

令和4年度は、前身となる八王子市コミュニティ振興会、八王子市文化振興財団及び八王子市学園都市振興会の3団体を統合し設立してから20年の節目を迎えたことから、財団設立20周年記念事業を実施しました。メイン事業として11月16日に「はちおうじで夢をかなえよう」と題し式典を開催しました。第1部のセレモニーは、八王子市長のほか多くのご来賓の方々にご臨席いただき、ご祝辞を頂戴いたしました。また、第2部ではこれまで財団にご協力いただいているアーティストの方々をお招きし、盛大に公演を実施しました。ご来場いただいた方にはご満足いただけたものと思っております。

令和元年から続いている新型コロナウイルス感染症は、ようやく落ち着きを見せ、これまで感染対策として制限されていた経済社会活動が徐々に緩和されたことから、施設管理においては、文化施設・コミュニティ施設とも利用が増え、利用料金収入は、コロナ前の90%を超えるまでに回復しております。事業においては、計画したイベントは概ね予定どおり実施することができましたが、コロナ禍での人々の生活様式や意識の変化により、入場者数はコロナ前の状況にはまだ戻っておりません。

また、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の影響により、原油価格の高騰に伴う電気料金の大幅な値上がりや、円安を要因とした物価上昇など、財政面で大きな影響を受け、年度当初から効率的な業務執行などによる経費削減や、国の補助金等の制度活用など収入確保に努めましたが、電気料金の値上がり幅が大きく、八王子市と協議の結果一部補填が認められたものの、今年度の財政運営は難しいものとなりました。

1. 中期経営計画の重点施策と結果

令和4年度は、第3次中期経営計画の2年目にあたり、同計画に掲げた施策・目標の達成に向け、安全面に配慮しながら事業を実施しました。重点施策の結果は次のとおりです。

(1) 魅力ある芸術文化事業を全市的に展開し、「芸術文化薫る魅力都市八王子」を市内外に発信する

「東京交響楽団定期演奏会」、「東儀秀樹コンサート」、「千住真理子リサイタル」など著名なアーティストによる公演のほか、夏休みの参加・体験型コンサート、声優による朗読劇や劇団「鳥公園」による演劇公演など、多様なジャンルで鑑賞機会を提供しました。

9月の「伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル 2022～」は、台風接近のため、人力車を除き施設内での実施となりました。多摩30市町村のうち8市町の伝統文化の実演や展示紹介を行ったほか、WEBサイトで21市町の伝統文化を紹介するなどの取り組みを行いました。また、プロジェクションマッピングを使った八王子車人形とブレイクダンスのコラボレーション企画では、若い関心層の開拓・普及を図りました。なお、より多くの方にご覧いただけるよう終了後に公演のアーカイブをYouTubeで配信しました。

また、翌年度の「八王子芸術祭」開催への機運を高めるため、「幸せを運ぶアート楽器」や「八王子芸術祭りリリースイベント」を実施しました。

夢美術館では5つの特別展を開催しました。

(2) 子ども・市民の文化活動、地域コミュニティ活動を支援し、豊かな市民生活実現と地域コミュニティ活性化に貢献する

子ども・市民の文化活動では、ユースオーケストラの商業施設での演奏会や、学校に音楽を届けるアウトリーチ事業などを通じて、多くの市民や子どもたちが音楽に触れる機会を提供し、また子どもたちの健全な育成に寄与しました。また、演劇では学生や若者が個人で参加できる自立的なネットワーク活動やワークショップ等を実施し、次世代の文化芸術活動を支援しました。

地域コミュニティ活動では、地域住民協議会が実施する催しのうち中止となった事業もありましたが、規模を縮小するなどの対策を講じて開催したセンターまつりや講演会などを支援し、地域コミュニティの活性化に寄与しました。

(3) 指定管理施設において、万全な維持管理と常に進化する運営でお客様満足最大化を図る「お客様の声対応システム」の運用等によりお客様のニーズを的確にとらえ改善に結びつけ、常に利用者目線に立った施設運営を行いました。

なお、各施設で実施した満足度調査結果は、「大いに満足」「満足」を合わせて99.5%を達成しました。

(4) 経営基盤の強化を図る

新たに管理職となった者や新規採用者の外部研修受講や職員への計画的な研修による人材育成に取り組み、組織力の強化を図りました。また、効率的な業務執行により固定経費の削減を図るとともに、利用料金や自主事業収入などの確保や各種助成金や補助金の制度を活用し収入増を図るなど収支改善に努めました。

2. 課題と展望

(1) 自主事業収入等の増収

市民のライフスタイルや価値観の変化による市場ニーズを的確に捉えた魅力ある事業を企画するとともに、芸術・文化の意義をより積極的・効果的に発信していく必要があります。従来手法にこだわることなく、動画配信やSNSによるPRなど、時代に応じた取り組みやサービスの充実を図り、経営的視点を持って事業を進め、自主事業収入等の増収を図ります。

(2) 固定経費の抑制

安定した財政運営のための収支改善には、固定費などの経費削減が必要であり、複数年・複数館契約による委託費の縮減など効率的な執行を進めていきます。

(3) 組織力の強化

職員の正規化や再任用制度の確立など組織力強化に取り組んでいますが、正規化した職員の更なるスキルアップなど、引き続き人材育成に取り組めます。

また、正規職員の新規採用を継続し、これからの財団を担う人材の確保を図ります。

(4) 情報発信の強化

財団主催事業の広報や宣伝を強化し観客数の増加を図るとともに、施設の利用案内などを積極的に発信し、利用率を向上させる必要があります。

財団設立20周年を契機に令和4年4月よりリニューアルした財団情報紙に加え、マスメディアやSNSなど様々な手段で財団の認知度を高める情報発信力の強化を図ります。

(5) 新型コロナウイルス感染症対策

感染症法上の分類が見直されることを受け、本格的に始まる新型コロナウイルス感染症と共存する新たな日常の中で、お客様に安心して施設をご利用いただくため、感染防止対策を継続しながら事業を実施します。事業実施に当たっては、感染状況を見極め、オンライン配信やSNSを活用しながら、安心して参加できるよう創意工夫して行います。

II 事業概要

1. 芸術・文化の振興事業

芸術文化会館(いちようホール)、南大沢文化会館、学園都市センター、J:COM ホール八王子など、八王子市内の公共施設を拠点に質の高い芸術作品を提供する事業を行いました。

財団設立20周年記念事業として、式典及び市ゆかりのアーティストによるコンサートや、これまで財団が実施してきた公演等のポスター展を実施しました。また、令和5年度秋に開催する「八王子芸術祭」のプレイベントやリリースイベントを実施しました。さらに、アーティストによる音楽講座や、学校にアーティストを派遣する事業等、市民が文化芸術を身近に感じる機会を創出しました。

夢美術館では、浮世絵など日本の伝統的な美術作品やジュエリーなど海外の美術工芸品の紹介、収蔵品の展示公開を行いました。

(1)鑑賞事業

ア. 一流の芸術実演団体やアーティストによる公演

財団設立20周年記念事業として、式典及び市ゆかりのアーティストによるコンサートを開催しました。また、東京交響楽団による「第9回八王子定期演奏会」や「ドラゴンクエストコンサート」に加え、「東儀秀樹コンサート～悠久の音色に包まれて～」や「八人の王子たち 第7楽笑!」、劇団「鳥公園」による演劇公演、「六代目神田伯山独演会」などの公演を実施しました。

イ. 親しみの持てる企画で質の高い芸術文化に触れる機会を提供する

夏休み恒例の子ども向けコンサートなどのオーケストラ公演のほか、「千住真理子ヴァイオリン・リサイタル」、「荘村清志ギター・リサイタル with 藤木大地」を皮切りに、南大沢クラシックシリーズを始動しました。また、人気声優による公演や「池上彰講演会」など、多様なジャンルで文化芸術の鑑賞機会を提供しました。

ウ. 国内外で高い評価を受けている優れた美術品等の紹介

「最後の浮世絵師 月岡芳年展」、「愛のヴィクトリアンジュエリー」、「デミタスカップの愉しみ」を特別展で開催しました。

エ. 現代の息吹を感じ未来を志向する、学生や子どもも楽しめる展覧会の開催

「ますむらひろしの銀河鉄道の夜 前編」を特別展で開催しました。

オ. 地域ゆかりの美術作品を紹介

小島善太郎、鈴木信太郎、大野五郎、城所祥、清原啓子など市にゆかりの作家の国内トップレベルの作品を常設展で紹介しました。また、「夢美セレクション展」では新たな視点から小島善太郎の画業を振り返るとともに、銅版画家清原啓子の幻想的な作風や城所祥の木版画の魅力を紹介しました。



「はちおうじで夢をかなえよう」公演



撮影:金子愛帆

鳥公園 演劇公演「ヨブ呼んでるよ」



ドラゴンクエストコンサート



荘村清志 ギター・リサイタル
with 藤木大地



「デミタスカップの愉しみ」展

(2)芸術・文化活動等普及事業

ア. 各種体験ワークショップと発表公演

学生や若者が対象の演劇事業では「つくる、タマリバ」をテーマに、各種ワークショップと発表公演を実施したほか、ネットワークづくりに取り組みました。また、「八王子ユースオーケストラ」では練習の成果を商業施設で披露、公演では地元バレエ団と共演を果たし話題を呼びました。また、小中学生を対象にした「MOBダンスワークショップ」を実施し、年2回発表会を実施するなど、地域に根差した次世代向けの市民参加型事業を実施しました。



演劇ネットワーク ぱちぱち
ワークショップ

イ. 八王子独特の芸術文化の普及

「伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル 2022～」は台風の影響により施設内で開催しましたが、プロジェクションマッピングを使った公演や、伝統文化の継承を意識した展示を実施し、撮影した公演のアーカイブをYouTubeで配信しました。



八王子ユースオーケストラ公演

学生を対象とした「学生の“KOTEN”芸能」では八王子芸妓衆を招いて開催しました。

ウ. 質の高い芸術文化の普及を図るため、気軽に足を運べるコンサートの実施やトークイベントへの演奏家派遣

平日の午前中に市民が気楽に楽しめる「モーニングコンサート」を開催しました。また、学校アウトリーチ事業では市内小学校7校に演奏家を派遣し、子どもたちが生の音楽を体感できる機会を提供しました。社会包摂の観点や学校のニーズを踏まえ演奏家とプログラムを企画しました。



伝承のたまてばこ
「HIKARIのたまてばこ」

J:COM ホール八王子では、季節をテーマに「SEASON'S コンサート」をロビーで開催しました。

エ. 市内の帝京大学との共同研究「洋画家 小島善太郎資料研究」の成果を「夢美セレクション展」で紹介するとともに、共同研究者の岡部昌幸教授に講演をしていただきました。



学生の“KOTEN”芸能

オ. 夏休み期間中に、東京富士美術館、村内美術館と連携して市内の美術館をめぐるスタンプラリー「SUN☆KANラリー」を実施しました。

また、八王子美術連盟と共催し、市内のギャラリーをめぐる「八王子画廊散歩」を実施しました。



「夢美セレクション展」

カ. 展覧会の内容をより深く理解していただくために、いちょうホールや学園都市センターでアーティストやコレクター、研究者による講演会を開催しました。「ますむらひろしの銀河鉄道の夜 前編」会期中には、ますむら先生のサイン会を実施しました。また、展覧会をより楽しんでいただくため、旧喫茶室スペースを利用して様々な教育普及事業を実施するとともに、特別展図録や関連グッズを販売しました。



ますむらひろし講演会

(3)公演等支援事業

市民団体が主催する演劇等の公演や、青少年のための南大沢音楽祭、南大沢文化祭などの地域の市民団体が主体となるフェスティバルに対し、当日の運営や舞台作りのアドバイスなどの人的支援や会場利用料の一部助成などを行いました。

2.コミュニティの振興事業

(1)コミュニティ育成事業

ふれあいのあるまちづくりの推進及び地域住民の交流促進を図るため、地域コミュニティの高揚及び啓発の場を提供しました。

ア. コミュニティづくりの活性化

地域住民協議会と協働し、地域の子どもの対象にした「バスケットボール教室」など4つのコミュニティ講座を開催しました。



コミュニティ講演会

イ. 住民協議会連携事業

17地域住民協議会で組織する住民協議会連絡協議会を4回(うち1回は総会)開催し、情報交換や意見交換を行いました。また、地域住民協議会役員を対象として「健康寿命のための食事と生活」についての講演会を実施しました。

ウ. 地区図書室の運営

地域住民協議会や地域運営団体とともに、13の地区図書室を運営し、図書の貸出・返却業務、蔵書管理をはじめ読み聞かせや季節の装飾などの行事、及び地区図書室運営担当者の研修会・連絡会を行いました。

エ. コミュニティ用具の貸出し(収益事業)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、センターまつりなどの各種イベントが中止となり用具の貸出しも減りましたが、プロジェクターについては年間を通して利用がありました。

(2)コミュニティ活動の支援事業

地域住民協議会への運営経費等の助成やまつりの開催経費等を助成しました。

ア. 住民協議会への助成事業

地域コミュニティづくりの推進団体である17地域住民協議会の活動を支援するため、運営費や広報紙の発行費用の一部を助成しました。各地域の市民センターまつりなどの催し物の一部は中止となりましたが、規模を縮小して開催できたものもありました。

イ. まつりへの助成事業

開催に向け準備を進めていた「八王子まつり」、「フラワーフェスティバル由木」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったことから準備経費のみを助成しました。

3. 学園都市づくりの推進事業

(1)市民大学「八王子学園都市大学(いちよう塾)」の運営事業(受託事業)

八王子学園都市大学(いちよう塾)では、大学コンソーシアム八王子加盟の25大学等を含む講座提供機関31機関より180講座の提供がありました。

また、受講生の募集のため、講座案内13,000部及び市広報特集号574,500部を作成するとともに、学園都市センターをはじめとする市施設に講座ごとに作成したチラシを配布するなど、市内外への周知に努めました。



いちよう塾 講座風景

(2)学園都市づくりの支援事業

「大学コンソーシアム八王子」による、八王子地域を舞台に地域貢献を目的として学生が企画・運営・実施した事業に補助金を交付する「学生企画事業補助金」に負担金を支出することにより、学生の活動支援を行いました。

4. 施設管理及び貸与事業

(1)八王子市地域市民センター18 館及び地区会館 14 館

市民センター18 館及び地区会館 14 館については、地域住民協議会や地元町会・自治会などと連携し、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、利用案内、施設貸出及び利用料金徴収などの業務や、施設や設備の保守管理業務を行いました。

施設の利用申込みについては、WEBによる利用抽選申込や電話仮予約の予約確定を引き続き実施し、感染拡大防止や利用者の利便性向上に努めました。

開館日数 337日

利用者数 1,107,729人 施設利用率 58.3% ※区分利用率

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 99.6%(大いに満足と満足の合計)

※市民センターの区分利用率は午前・午後(A・B)・夜間(A・B)それぞれの利用区分数の合計を利用可能区分数で除した数

(2)八王子市芸術文化会館(いちようホール)・(3)八王子市南大沢文化会館

芸術文化会館(いちようホール)、南大沢文化会館の指定管理者として、指定管理申請における提案書に基づき、利用案内、施設貸出、利用料金徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに、施設利用の促進及び利用者満足度向上に努めました。

ア. 芸術文化会館(いちようホール)

開館日数 312日

入場者数 163,286人 施設利用率 70.5%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 99.4%(大いに満足と満足の合計)

イ. 南大沢文化会館

開館日数 321日

入場者数 115,912人 施設利用率 88.6%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 100%(大いに満足と満足の合計)

(4)八王子市学園都市センター

学園都市センターの指定管理者として、指定管理申請における提案書に基づき、利用案内、施設貸出、利用料金徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに、施設利用の促進及び利用者満足度向上に努めました。

開館日数 357日

入場者数 93,352人 施設利用率 84.7%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 99.3%(大いに満足と満足の合計)

(5)八王子市夢美術館

夢美術館の指定管理者として、施設、設備、備品、収蔵品の適正な管理及び受付業務(観覧料の徴収など)を行いました。

開館日数 248日

施設利用・事業参加者数 31,285人(うち展覧会入場者数30,479人)

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 99.2%(大いに満足と満足の合計)

5. 広報宣伝・会員事業

ホームページや情報紙等を通じて、事業及び催し物の情報提供を行いました。市民の新聞離れの対策として、令和4年度に刷新した情報紙を市全域に配布し、「ラ♪ラ♪ラ MAGAZINE」ではアーティストや文化人等の取材記事を掲載し、事業の意義を市民に伝える広報を実施しました。また、友の会制度及びサポート会員制度を見直したほか、チケット購入の利便性を図るため、コンビニエンスストアでのチケット引取りやクレジットカード払いシステム運用を推進しました。さらに、民間の文化情報サイトや地元エフエムラジオでの情報発信や取材記事掲載に取り組みました。

6. 収益事業

利用者の利便性の向上を目的として、駐車場の管理・運営、チケットやグッズの受託販売等を行いました。

7. その他の事業

(1)大学コンソーシアム八王子の支援

全国有数の規模を持つ学園都市という地域特性を活かし、大学・学生・市民がそのメリットを感じることができ、高等教育の充実、地域社会の発展及び地域の国際化の推進など魅力ある学園都市の形成に向けた事業を展開する「大学コンソーシアム八王子」との協定に基づき、財団職員を事務局へ配置し、運営を支援しました。

(2)市内で行われる祭り、フェスティバル等の支援

「踊れ西八夏まつり」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったことから、開催準備経費のみ助成しました。

また、「八王子いちよう祭り」の運営費の一部を助成するとともに、当日運営の支援を行いました。

8. 法人管理

予算決算・経理・人事管理等を適正に行い、円滑な運営に努めました。

また、評議員会を2回、理事会を4回、諮問委員会を2回開催しました。

(1)財政収支の改善

外部助成金の獲得などにより収入の確保に努め、利用料金収入の減収を補いながら、効率的な業務の執行により支出を抑制し、収支の安定に取り組みました。また、電気料金の急激な値上がりについては、八王子市と協議し、一部補填を受けております。

(2)サービス品質の向上

マネジメントの確実性を高めるとともに、お客様の声を的確に改善につなげ、利用者目線に立った施設管理を行いました。また、情報セキュリティポリシーに基づき情報資産や情報機器を適正に管理しました。

(3)人材育成と組織力強化

ア. 人事制度の改革

嘱託員の正規化や一般職職員の総合職への転換制度により、職員のモチベーションを高めて将来の財団を担う人材を確保するとともに、65歳を超える職員の雇用継続制度を活用し人員体制を構築しました。

イ. 人材の育成

新たに管理職となった者や新規採用者の外部研修への参加のほか、研修計画に基づき各種研修を実施したほか、サービス介助士の資格取得や指定管理事業計画で提案した上級救命講習に参加させるなど、職員のスキルアップを図りました。

ウ. 情報発信力の強化

芸術文化公演をはじめとする各種催物などの情報や本財団が管理運営する施設の利用案内をホームページ、情報紙等で市民に発信しました。また、18市民センターにおいてはWEBによる抽選申込を継続し、サービスの向上を図りました。

(4)第3次中期経営計画の目標達成

第3次中期経営計画(令和3年度～7年度)に掲げた施策や目標を達成するために作成した各所管の課別経営計画について、理事長、常務理事及び財団管理職で構成する「執行会議」を毎月開催し進捗状況や成果について情報を共有するとともに、具体的な改善策を検討・実施しました。また、管理職で構成する「部課長連絡会」を開催し、情報共有を図るとともに、事業検討や課題解決に取り組みました。

令和4年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第9条第2号に規定する事業報告の附属明細書は作成していません。